

将来構想

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>グローバルな情勢変化、環境共生への対応、サプライチェーンなどに見る産業を取り巻く状況などの表現として、「ロシアのウクライナ侵攻等による」との記載があるが、深刻な米中対立やコロナウイルスのパンデミックなど様々な要因によるものであり、これを「等」だけで表現するのは弱いと思う。特に経営者にとっては、中国への関心も大きいことから、これらに配慮した表現が良いと考える。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻以外にも、府民生活に影響を及ぼしている社会事象の発生はありますが、京都府総合計画の前倒し改定に至る背景としての代表例として記載をしております。</p>
<p>「一人ひとりの夢や希望が実現できる社会を目指す」というのは、非常に困難ではあるが、本質的に大切なことなので、これを実現したい姿として掲げたことはよいことだと思う。ただ、そのために大切なこととして4つの姿を提示しているが、「人と地域の絆を大切にすること」は、実現したい姿と対をなす考えである。これは目指す姿の大前提とし、その上に残りの3つの姿(文化・産業・環境)がある、と考えた方が良いのではないか。</p>	<p>「一人ひとりの夢や希望が全ての地域で実現できる京都府をめざして」というテーマに対して、そのテーマが示す具体的な姿として、「人と地域の絆を大切にすることの共生の京都府」は、他の3つの将来像と並んで、2040年に実現すべき社会を表す一つの要素であると考えております。</p>
<p>将来構想1(4)基本計画改定のポイント<人口減少・少子高齢化・共生社会への対応>の項目に、「新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、感染症に関連した差別が生じる」という言葉が記載されているが、数年後を見据えた計画にするのであれば、新型コロナウイルス感染症については既に多くの対策が行われ、予防接種や治療薬も今後すぐに開発されると推察されることから、新たな感染症のことを想定するのであれば、文言は「新興感染症」と記載した方が将来的な感染症にも対応し、差別を無くす取組になるのではないか。</p>	<p>御指摘の部分については、総合計画改定の背景をベースに、京都府がめざす基本的な方向性を考える上で重要となるポイントについて検討した部分です。基本計画を改定する上での現状・課題認識を中心に記載しており、顕在化した新型コロナウイルス感染症に関連した差別に言及した内容としております。</p>
<p>中間案「将来構想」の10～13頁では、「5つのエリア構想」から、絆を繋げる「8つの広域連携プロジェクト」へとされるが、「4つのエリア」という文言が登場し、これはももとの「5つのエリア」に対応するのか、⑤から⑧の「京都府北部地域連携都市圏」「南丹地域スポーツ&ウェルネス&ニューライフ」「京都府南部イノベーションベルト」「グレーターけいはんな」という地域が明記された4つの「広域連携プロジェクト」のことを指すのか、判然としない。</p>	<p>御指摘を踏まえ、従来の「5つのエリア構想」について付記した上で、「4つのエリア」が示している定義がわかるように記載方法を工夫します。</p>

将来構想

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
複数箇所において「食糧問題」と記載があるが、子ども食堂やフードロスなどを視野に入れた施策展開であるならば、「食料問題」と記載することが正しいのではないか。	御指摘を踏まえ、「食料問題」に修正します。
将来構想にまとめて現状分析と課題を記載しているが、分野別基本施策の各項目には現状分析と課題が記載されていない。こちらにも記載した方がよいのではないか。	20の分野別基本施策においても、当該分野の現状分析・課題を記載します。